

キヤノン 品質管理 「選別」篇 大岡俊彦

工場、または白い空間。

ヤンキーとかだらしない服を着た男、デブ、イケメンたちが列になっている。

列の前には監視員。

端からレーザーで殺し、イケメンだけを通す。

イケメンだらけの列になってもさらに別の監視員が選別し、  
微妙なイケメンをレーザーで殺し、優生人類だけ通す。  
まるでナチスのガス室のような、SFのディストピアかと思わせる。

ついに列は、同じイケメンだけになる。

同じ恰好、同じ歩調で歩く。

一人だけ寝ぐせがついているのに気付き、

最後の監視員がレーザーで殺す。

同じ格好、同じ歩調で歩く、同じ顔の男たち。

それが、工場ライン上のレンズにO L。

T： 人間には多様性があるべきだが、  
レンズは逆だ。

**Human should have diversity.**

**Lens not.**

キヤノンの品質管理技術。

※ 同じ人種の不良をはじく話にしましたが、黒人やヒスパニックを殺したり、難民を殺したり、肥満やLGBTを殺したり、「多様性」に反することをどぎつくやると、社会性が強くなり、賞取りのレベルになると思います。